

植木鉢や溶接した鉄を組み合わせた作品「合図Ⅱ」＝愛知県豊川市の桜ヶ丘ミュージアムで



# 「半音ずらした世界」出現

愛知県豊橋市在住の美術作家、村田千秋さんの個展「記述の仕組み」が、同県豊川市桜ヶ丘ミュージアムで開かれている。立体造形をはじめ多様な表現で鑑賞者に思考をもたらし、「見て楽しむ」という現代美術の本質も問う展覧会だ。

溶接した鉄で作った「枝」と植木鉢を組み合わせて、観葉

## 豊川 美術作家・村田千秋さん個展

植物が上下反転したかのように見える「合図Ⅱ」。「鉄」のページに鉄類をはさむ」では、国語辞典や英和辞典を積み上げ、それぞれ「鉄」の項目が書かれているページに、ハンガーなどの鉄製品を挟み込んだ。

「出現するのは日常と全く違う世界ではなく、音で言えば半音ずらした世界」と村田さん。机や椅子などの既製品や身近な素材を使って、従来の機能や意味を転換させた作

品には、どこかユーモアが潜む。

一九四九年、豊川市生まれ。京都市立芸術大と同大学院で彫刻を学んだ後、豊橋市を拠点に、主に関西で発表を続けてきた。県内では六年ぶりとなる個展。九〇年代から近年に至る立体作品のほか、数分間にテレビ画面に映ったものを順番に描き出したというドローイング（素描）なども並べた。二十二日まで。

（宮崎正嗣）